

平成 18 年度第 1 回基礎水理部会 議事録（案）

日時：平成 18 年 9 月 21 日 12:30 - 13:30

場所：立命館大学理工学部 コーニングハウス の C506

出席者：羽田野、清水（康）、清水（義）、関根、山坂、安田、横嶋、藤田（裕）、高濱、富永、藤田（一）、木村、竹林、内田

報告事項

1. 水工学委員会報告（関根幹事、山坂委員）：水工学委員会HP参照

7月28日開催の委員会において、8月開催の災害関連の報告会・シンポジウムの日程の紹介があったこと、水工学に関する夏季研修会の話題があったこと、全国大会での研究討論会開催の紹介があったこと、土木学会学術文化事業助成で本年度は水文部会・基礎水理部会・水シンポジウムに助成が決まったこと、この原資が底をついて次年度以降の助成ができないので資金源としてソフトウェア総合プロジェクトを模索していること、

IAHR-APD ジャーナルを韓国の水資源学会が中心に発刊する予定で JHHE の国際ジャーナル化に影響が出そうであること、各部会報告で基礎水理部会の活動報告を行なったこと、基礎水理部会の活動報告の中で「河川構造物等に作用する流体力と流れ」研究分科会で論文集出版を検討中であることについて委員長から懸念が表明されたこと、河川部会開催のシンポジウムで優秀発表賞を創設したこと、第 52 回水工学講演会が広島大学で開催が決まったこと、平成 18 年度水工学論文賞・同奨励賞が決まったこと、などが報告された。

2. 研究分科会報告

・「河床変動計算システム検討」研究分科会（竹林委員、清水（康）委員）：資料有

要点：5 年間に亘り開発してきた河床変動計算ソフトをフリーウェアとして WEB 公開しダウンロード可能とした；英文マニュアルをも作成した；システム使用方法の講習会を基礎水理部会と国土交通省の共催で行なう予定である；プログラムの修正を実行ファイル提供者が継続的に行なう；1 次元計算を入れる方向である；システムのメンテナンス費用・英語版マニュアル作成費を国土交通省・国土技術研究センターが支出する；「商用禁止」はプログラムの転売を禁止するものでコンサルタントなどがこのソフトを使って業務を行なうことを禁止するものではない。また、システム使用方法の講習会を基礎水理部会の委員で行なう予定であるので、その開催に際して講師として活動するよう協力依頼がなされた。

・「河川構造物等に作用する流体力と流れ」研究分科会（安田委員）：資料有

シンポジウムの開催が紹介された。また、水工学委員会報告 の関連で議論がなされた。

・「流体力の評価とその応用に関するシンポジウム」の開催の経緯説明（安田委員）：資料有

要点：当初予定していた論文集の発刊は見合わせる；シンポジウムの講演募集のHP掲載に当たっては、現時点で基礎水理部会のHPに掲載の「河川構造物等に作用する流体力と流れ」の議事録（案）で「論文募集」を「原稿募集」に修正して講演募集（案）を作成し、研究分科会のメンバーの了解を得た後に部会のHPに掲載する；最大 30 件の発表を想定し、他の学問分野を含めて講演発表を呼びかける。

なお、これまで通り、基礎水理部会の主催とすることとし、基礎水理部会委員が査読をすることの依頼があった。

・「粘性土の侵食」研究分科会（関根幹事）

12月に研究会を実施予定である、関係者の参加をお願いしたい。

・「IT検討」研究分科会（藤田（一）委員）

引き続き情報提供をお願いしたい；書籍の紹介も可。

・「数理水理学」研究分科会（竹林委員）：資料は河床変動計算システム検討と共通
前記の水工学委員会報告事項に加え、9月1日にデルフト水理研究所で開催の「日蘭セミナー」において、デルフト水理研究所と開発したシステムについて意見交換を行なった。

3. その他

・水災害・リスクマネジメント国際センター設立の関係（部会長）：資料有
2006年4月1日、旧来の（独）土木研究所と（独）北海道開発土木研究所が統合し、新たな組織として（独）土木研究所が出発した；新組織は、つくば中央研究所、寒地土木研究所、水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）からなる；ICHARM 設立記念式典&設立記念シンポジウムが9月14日に開催された。（独）土木研究所とICHARMの資料が紹介され、研究分科会等で協力して取り組む方向があることが紹介された。

協議事項

1. 委員の就任について（部会長）：資料有

本件につき平成17年度第2回基礎水理部会において、部会長が方向性を示すことが決められたことを踏まえ、申合せ案が提示され、了承された。

要点：基礎水理部会の委員から、経歴・研究歴を添えて部会長に推薦する。部会長は、水工学委員会 内規細則の4.の条件を確認し、幹事と協議の上、部会の委員に諮る。部会の委員の賛同が得られた後、水工学委員長に報告する。部会活性化のため若手の委員の就任を促す。部会委員の構成は、委員の地域分布、学以外の委員に一定の配慮をする。

これに関連し、内規細則の4.の条件を再確認し、基礎水理部会が関係する「部会」境界分野の人を推薦する、などの道が示され、これらの方向での推薦が要請された。

2. その他

（1）基礎水理部会が結集する講演会などの活動

現状の部会の活動の問題点と今後の取り組みについて議論された。

主要意見：

- ・基礎水理部会は研究分科会の活動がバラバラに行われ、部会全体の活動が見え難い。
- ・部会が一丸となった講演会として昔の水理講演会のような企画が必要である。これは研究分科会の活動を束ねる活動としても好適である。
- ・水理講演会が「水工学講演会」となったので、水理委員会（の名称）を基礎水理部会主催で復活させることも考えられる。
- ・昔の水理講演会的な企画では水工学講演会との仕分けが必要になる。
- ・実質議論充実のため、分科会のテーマなどを参考に、講演会はテーマを決めて行なう課題制とする方法もある。
- ・講演会開催は、研究のための研究を避ける効果を期待したい。
- ・論文集にすると、確かに人が多く集まる。すると、ルーチンワークになる、実質の議論ができ難い、などの弊害が出る。
- ・河床変動計算システムの講習会で基礎水理部会委員が講師として行なう方法は部会が一丸となった活動として好適である。

基礎水理部会が結集する講演会のあり方については、次回の部会（2007年3月）までに各委員で検討することになった。

（2）委員の異動

橋本委員の退任の申し出を了承した。

(3) 次期部会長

部会長の任期が 2007 年 5 月まで。次期部会長については、現部会長の方で水工学委員長と相談しながら候補者を決定する。